

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0171500846, 有限会社 ウィズ).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Jiv_0syoCd=0171500846-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当社の理念『心接介護』を掲げ、ご利用者様一人ひとりへの個別ケアに心掛けております。事業所としてのマニュアルは作らず、ご利用者様のその日の体調や気分に合わせて時間の拘束性を持たず一緒に生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、2004年7月1日に開設された北斗市の南部に位置しているグループホームである。建物の構造は木造造りの2階建てで、1・2階ともにグループホームを運営している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Assessment Criteria (e.g., 該当するものに〇印), and Results (e.g., 取組の成果).

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	企業理念として、全事業所統一した『心接介護』を理念とし、社是を掲示し、ケアに迷った時の指針として取り組んでいる。	企業理念である『心接介護』を玄関に掲示し、職員がいつでも見れる環境を整えたり、毎月の会議にて理念の共有できるように実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会のゴミ拾い、町内会のお祭りに参加、運営推進会議へ町内会長参加等の活動がある。	新型コロナウイルス感染症が流行するまでは夏祭りやゴミ拾いなどの地域との交流は実施されていたが、今年度は拡大予防のため、全て中止している。町内会長へは運営推進会議の議事録を届けるなどして関係性が途切れないようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	参加者より意見を頂き、速やかに検討し次回の運営推進会議にて検討事項の報告を行っている。	運営推進会議は、感染症拡大予防のため事業所内職員のみでの参加とし、書面にてご家族や地域の方へ送付しご意見を頂いている。感染症の状況を見極めながら今年度は2回開催している。	開催時間が18時からの開催となっており、参加者が限られている状況であるため、開催時間を検討してできるだけ多くの方が参加できる会議になるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北斗市・包括支援センターとの情報交換を日々行っています。また、運営推進会議にも必ず北斗市・包括支援センター担当者が参加して情報の共有を行っている。	運営推進会議が書面開催であるため、市役所や包括支援センターへ直接伺い、担当者へ会議の資料をお渡ししている。空き状況については、北斗市からお問い合わせがあればその都度お伝えし情報共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常にリスクマネジメントを行っており、安全対策を行っている。	身体拘束廃止に関する指針の策定はされており、また、身体拘束廃止委員会を月2回開催し、日々のケアの見直しを行ったり、事例を用いて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指針やマニュアルの策定日や改定日の記載がないため、いつ策定・改定したものなのか不明。日付の記載をしてわかりやすくしたほうがよい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全社学習会等で学ぶ機会を持ち、虐待については周知徹底している。また、包括支援センターと連携を取って慎重に見守り・防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全社学習会で学ぶ機会を持ち、必要な方へ支援を北斗市と連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず利用者様・ご家族の理解を得てから契約・解約を行っている。また、改定時は個別に訪問し、改定箇所を説明し、納得を頂いたあと再度契約書を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでも投函できるようにしている。また、何でも言っていたらけよう日頃よりコミュニケーションを図っている。	感染拡大予防により家族の来訪がないため、週1回利用状況をお伝えした際に、ご意見を頂戴している。電話だけではなくLINEを活用し家族とコミュニケーションを図り、頂いたご意見を会議の場で周知し反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも話せるような時間を設けている。個人面談を行っている。	日常の業務内や業務の引き継ぎの際に都度意見を徴収している。また、月1回のユニット会議にて一人ひとりが意見や提案を発言できる場を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員の状態を把握し、行き詰まり等をなくし生き生きと仕事ができるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ積極的に参加できるように配慮しており、OJT制度に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	認知症ケアを通じて同業者との交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも安心していただけるよう、利用開始前には訪問するなどをして、要望等を積極的に聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも安心していただけるよう、利用開始前には訪問するなどをして、要望等を積極的に聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談時に必要とすることを考慮したプラン作りを行っている。また、緊急時等の対応も説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームが別家の捉えで疑似家族のように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どちらか任せにしないよう、家族とは頻りに連絡を取り、共に支援できるよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が訪問したい時いつでも訪問し楽しい時間を過ごしていただけるよう努めている。	以前までは、馴染みのある方や近所の方が来て、お会いすることがあったが、ご新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、現在は玄関先での対応や電話での対応となっているが、関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全てにおいて職員が支援してしまうのではなく、能力を勘案し、助け合えるよう環境作りに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当社お祭りへの参加の連絡など、定期的に声かけさせていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でのアセスメントをし、本人と向き合い、その人らしさを大切にマネジメントしている。	日常の中で入居者から意見を徴収し、毎月開催のユニット会議にて入居者ごとの思いや意向などの情報を共有している。アセスメントは年1回実施し、ケアプランに反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でのアセスメントをし、本人と向き合い、その人らしさを大切にマネジメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式でのアセスメントをし、本人と向き合い、その人らしさを大切にマネジメントしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必ず家族や関係者と相談しながらマネジメントしている。	毎月のユニット会議内でカンファレンスを実施し入居者の状況を確認し、ケアプランに反映している。検討したケアプランは、家族へ配布・説明し同意を得ている。カンファレンスには全ての職員が参加できる体制を整えており、参加できない職員へは議事録にて周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はもとより、小さな変化の情報を共有し、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にこれで良いとは考えずに、より良い方法はないかと考えながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を北斗市・包括支援センター7や他事業所より聴き、実用時支援をするよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医との関係を途切れないようにしており、新規利用時には主治医との情報交換をしており、受診への支援を行っている。	施設のかかりつけ医は月2回往診に来ていただいている。また、入居者ごとの希望によりこれまで診てくれたかかりつけ医を継続し関係が途切れないようにしている。病院受診は、可能な限り家族で対応し、難しい場合は施設が対応しており、適切な医療が継続して受けられる様に支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当社訪問看護事業所に連絡を取れる体制を整えており、利用者様の状態観察を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同席し、早期退院に向けての相談を行っている。また長期になっても主治医・医療相談員との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に意思確認をし、主治医より病状悪化の診断が告げられた場合、本人・家族の希望に添えるよう関係者での検討会を開催している。	入居契約時には意思確認書に記載してもらい、入居者の状況が変わった際に改めて、主治医から病状を家族へ説明し、本人や家族の意思を確認している。職員への周知は、毎月開催のユニット会議や引き継ぎ簿を利用して毎日ご本人の状態を伝達し情報共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルあり。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っており、地域への協力依頼も運営推進会議の時発信している。	年2回(6・12月)に自主訓練という形で火災と水害を想定して実施している。水害対象地域ということで備蓄の保管場所は2階にて管理されている。地域への協力依頼もされており、災害対策の体制を構築されている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に声かけや対応をしている。	日々のケアについては、職員同士が業務の中で互いに注意し合うよう心がけている。また、接遇研修を実施して職員教育をしていたり、また、契約時に同意をいただく個人情報使用同意書と同時に、広報誌やHPなどでの公表についても同意をいただき対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	適切な判断が困難になっても決定はできることを周知しており、意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	施設のマニュアルではなく、個別ケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と相談をしながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を勘案し、職員と一緒に準備や片づけ、食事をしている。	手指消毒は徹底しながら、調理の手伝いや盛り付けしてもらい、準備や片づけも関しても入居者ごとにできる事を依頼し一緒に行っている。食材は最寄りの店で購入・配達してもらい、献立は管理栄養士が作成したものをもとに調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病状も考慮し、管理栄養士による献立を使用し、食事量や水分量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後すぐではなく、本人のペースに合わせて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンのアセスメントを取り、本人に合わせて排泄支援を行っている。	排泄パターン表を活用し、入居者ごとの排泄パターンを把握し誘導や声かけしている。失敗しても本人が落ち込んだり嫌な気持ちにならないようフォローするよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行いながら、便秘だからとすぐに薬に頼るのではなく、水分や運動への取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴時間は決めておらず、本人の馴染みの時間や希望に沿って支援している。また、入浴を拒否した場合無理強いせず、気持ちよく入浴できるよう検討している。	週間予定表にて管理している。曜日に関しては、週2～3回内である程度決めていたが、時間は決めずに臨機応変に対応している。入浴を拒否する方への対応は、時間をおいたり、職員を変えたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自分の居室に戻り、休息できるよう支援している。また、馴染みの寝具を使用しているため安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当社訪問看護師より指導を受け、服薬支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味活動ができるよう家族と連絡を取りながら行っている。また、職員との外出の機会を多く取り入れている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々行きたい場所への支援をしており、紅葉狩りや外で焼肉パーティーを行っている。また近隣の買い物や散歩時には地域の方々も声をかけてくれ、立ち話になることもある。	感染拡大予防により外出することはできないが、今後、事業所単位でできる行事の開催や買い物や花見などの外出ができればと検討している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を所持する事を禁止しておらず、いくら持っているのかを家族と連絡を取り把握できるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと訴えがあったら、電話できるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた飾りを行い、季節感を演出している。不快のないよう常に利用者目線で対応している。また、利用者が心地よく過ごせるよう検討も行っている。	ユニット中央にある長い廊下は、職員が居室を見渡すことが出来る造りとなっている。小型犬の『ごん』が入居者や職員の心を和ませてくれている。ピアノ演奏ができるような環境があったり居間の大型テレビがあり清潔感のある落ち着いた共有空間である。1～2時間に1回程度換気を実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に談話スペースを設け、いつでも利用できるよう空間作りをしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの寝具・家具を持ちこんでいただくよう伝えており、希望の方は持ち込んでいる。	ベッド以外の家具は入居者がこれまで生活されていた時の馴染みのある家具を持ち込んでいただくことで本人が居心地良く過ごせるように工夫している。また、入居者ごとにお部屋に写真を飾ったり絵などを飾られており、整理整頓もされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置やトイレ、洗面所等障害を想定し設計している。			